

LLL250 アメリカ英語入門

3年 1,2クォーター

担当教員 ジャヌツツイ・チャールズ

授業形態 講義, 演習

単位数 2

曜日・時限 未定

授業概要

このコースでは、アメリカ英語の方言とアクセントを通じてアメリカ英語の調査を行います。一部の方言とそれら方言の元となるサブカルチャーを検証します。検証する方言は以下のとおりです。

Gullah Geechee, Lanappe, Tidewater Brogues/White Coastal English, Pennsylvania Dutch English, Pittsburgh English, Louisiana Cajun English。「方言」という用語は、文法、語彙、および慣用法のばらつきに関係するものです。これらのばらつきは、任意の話者がある特定の方言に属していることを示す場合があります。コミュニケーション方法によっても、任意の人物がある方言に属していると特定することが可能です。たとえば、アメリカ英語話者は、だれかと知り合いになるためかなり異なる方法で話します。雑談のための方法も大きく異なる場合があります。「アクセント」という用語も多くの場合方言の一部と考えられます。アクセントは特定の方言の一要素として、話し言葉の発音のばらつきの側面を取り扱うものです。文法、語彙、および発音/アクセントにおけるこのようなばらつきを標準的なアメリカ英語（「一般米語」ともいう）の典型と比較対称します。社会言語学的分析以外に、このコースでは、米国の政治的境界内の言語学的違いの元となり、この違いを維持し、強化するサブカルチャーの主要な側面にも目を向けます。

また、このコースでは、英語を学ぶ学生にとっての方言およびアクセントの実用的側面にも注目します。たとえば、米国でホームステイすることになったらどうしますか？本物の、速く話される英語に衝撃を受けないよう準備できていますか？「JEAT-JET（シートジェット）」のように聞こえた場合、「Did you eat yet?（もう食べましたか？）」という簡単な質問が理解できるでしょうか？このコースでは、米国全土で実際に話されているとおりに多くのアメリカ英語に親しみます。ほぼ全員がある言語の方言を取り込み、アクセントを付けて話します。アメリカ英語の方言およびアクセントを学ぶ目的は、単にそれらの学術的分析に携わることではありません。むしろ、この場合の主な目的は、方言とアクセントが日常生活において通常どのような形でアメリカ英語を代表するかを学生に理解させることです。方言やアクセントは馴染みのないものではありません。普通に存在するものです。

到達目標

学生の知識向上に向けたこのコースの目標は以下のとおりです。

- (1) 社会言語学の基本概念、基本原理、および実践の紹介
- (2) TOEIC のリスニングテストで聞かれる標準など、英語の他の標準型と比較したアメリカ英語の概要
- (3) 標準的アメリカ英語と白人、黒人、ヒスパニック、ネイティブアメリカンが実際に主流として話していることばの比較
- (4) 主流として話されていることばと特徴的なアメリカの方言およびアクセントの興味深い例との比較
- (5) 言語のばらつきを示す言語学的データを募り、記録し、分析する方法に関する応用知識
- (6) アメリカ英語および他の型式の英語と日本語などの学生の母語との比較
- (7) 他言語話者の英語（日本人の英語話者など）の主要な面の考察およびこれらの側面と方言がどのように比較可能かすなわち、世界英語の一方言としての非ネイティブ話者の英語

先修科目

LLL 210: 言語学入門（または相応のコース）

教科書・参考資料等

- (1) Orion, G. (2011). Pronouncing American English: Sounds, Stress, and Intonation, third edition. Boston, MA: Heinle Cengage ELT.
- (2) MacNeil, R. & Cran, W. (2005). Do You Speak American? New York: Manner Books.
- (3) 講師が提供するプリントおよびマルチメディア資料

授業の方法

授業は短時間の講義、プレゼンテーション、ペアまたはグループプログラムでのディスカッション、およびペアやグループでの課題提出を織り交ぜて実施されます。たとえば、特定の言語学的话题が説明されます。ペアまたは少人数グループで課題に取り組む学生は、自身の第一言語、フィールドワーク、およびインターネット調査より得られた例など、他の例を探すことを求める課題に取り組みます。クラスメートに対し調査結果を発表してもらいます。この情報も分析および考察されます。

成績評価

評価基準は以下のとおりです。

- (1) 文献の中で考察される内容および問題に対するレポート（5回の小レポート）
- (2) 授業内ディスカッションへの参加
- (3) 言語学的话题の説明となる例を発見する宿題および発見内容のクラスメートとの共有
- (4) 社会言語学的分析のための小規模なリサーチツールの考案および導入（ペアまたは小グループでの作業）

成績

（全体を100%とした場合の割合）

- (1) 文献に対するレポート（20%）
- (2) 小プレゼンテーションを含む授業への参加（30%）
- (3) 最終グループプロジェクト、社会言語学的分析のための小規模リサーチツール（50%）

授業スケジュール

第1回:

社会言語学概要 - 原理、概念、方法

講師のプリント

課題文献の内容予告

第2回:

社会言語学の概要の続き

前週の文献に関するディスカッション

講師のプリント

課題文献の内容予告

第3回:

社会言語学に役立つ音韻論的・音声学的分析の概要

標準アメリカ英語入門 - 他の型式の英語との比較

Orion本より発音練習

課題文献の内容予告

第4回:

実際に普及している米国のことば（白人、黒人、ヒスパニック、およびネイティブアメリカン）と標準アメリカ英語との比較

引き続き Orion本より発音練習

課題文献の内容予告

第5回:

データ分析、書き起こしの練習

引き続き Orion本より発音練習

課題文献の内容予告

第6回:

引き続きデータ分析、書き起こしの練習
引き続き Orion 本より発音練習
課題文献の内容予告

第7回:

アメリカ方言：アパラチア地方
アパラチア文化入門
アパラチア地方の方言およびアクセントの特性の分析
書き起こし
MacNeil 本の読解
引き続き Orion 本より練習
課題文献の内容予告

第8回:

アメリカ方言：Tidewater（タイドウォーター）
タイドウォーター文化入門
タイドウォーターの方言およびアクセントの特性の分析
書き起こし
MacNeil 本の読解
引き続き Orion 本より練習
課題文献の内容予告

第9回:

アメリカ方言：Lanappe
Lanappe 文化入門
Lanappe の方言およびアクセントの特性の分析
書き起こし
MacNeil 本の読解
引き続き Orion 本より練習
課題文献の内容予告

第10回:

アメリカ方言：Gullah-Geechee
Gullah-Geechee 文化入門
Gullah-Geechee の方言およびアクセントの特性の分析
書き起こし
MacNeil 本の読解
課題文献の内容予告

第11回:

アメリカ方言：Pennsylvania Dutch（ドイツ系ペンシルバニア人）の英語
ペンシルバニアドイツ語、Pennsylvania Dutch 文化入門
Pennsylvania Dutch の方言およびアクセントの特性の分析、ピッツバーグ英語との比較
書き起こし
MacNeil 本の読解およびディスカッション
課題文献の内容予告

第12回:

アメリカ方言：Louisiana Cajun
ルイジアナクレオール語およびケイジャンフランス語入門、ルイジアナクレオール文化およびケイジャン文化
ルイジアナケイジャン方言の特性の分析
書き起こし
MacNeil 本の読解およびディスカッション
課題文献の内容予告

第13回:

方言およびアクセントのばらつきを示すための言語学的データの募集
等語線および等語線クラスター（音、発音、単語および熟語、慣用句など）の発見
単語の意味に関し人々が実際に抱いている概念の発見のための意味的特性分析の使用
課題文献の内容予告

第14回:

ペアまたはグループで、方言およびアクセントのばらつきを示すための言語学的データ募集のための言語特性セットの考案
データ収集のためのインターネット利用を含む小規模フィールドワーク

第15回 - 第16回:

引き続きペアまたはグループで、方言およびアクセントのばらつきを示すための言語学的データ募集のための言語特性セットの考案
データ収集のためのインターネット利用を含む小規模フィールドワーク
小規模フィールドワークの結果に関する最終レポートの提出
学習内容の自己評価および授業内容の評価の提出

事前・事後学習

1) ほぼ毎週の授業ごとに宿題があります。宿題は、精読課題および書き起こしの練習課題です。このコースでは、2種類の書き起こし課題が出されます。1つ目は、国際音声記号（IPA）および話し言葉の音声学・音韻論的分析に関する実際上の知識を実証するよう求める課題です。2つ目は、英語の会話を聞き取り、聞き取った内容を書き起こすよう求める課題です。この書き起こしを行うにあたって、標準的な英語の綴りを使用して構いません。これらの課題は、個人学習かグループワークかを問わず1週間あたり約2時間かかります。次の授業に備えて文献を読み、書き起こしの練習課題に取り組む必要があります。

(2) ほとんどの授業で、書き起こし課題の答え合わせを行います。事前に読んでおくように伝えた内容についても考察します。

(3) ほとんどの授業で、宿題（次回の書き起こし課題および精読課題の両方）の事前説明を行います。学生に授業時間の一部を割り当て、書き起こし課題の内容を理解していることを確認するため、課題に取り組んでもらいます。講師は、学生が次回の授業の準備のため精読がより進むよう、精読課題の概要説明を行います。